

ヒナユキスズメ *Phenacolepas* sp.

【選定理由】

本種は、内湾奥の河口域に発達したヨシ原湿地周辺などの深く埋もれた転石下に生息する。県内ではヨシ原湿地という生息環境自体が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているので本種の生息地、個体数とも著しく減少したと考えられる(木村・木村, 1999)。本種は小型種で、深く埋没した石の下面という特殊な場所に生息する。本種の発見当初は主に内湾奥で生息地が発見されたが、近年は貝類多様性の回復傾向が認められている三河湾の島嶼域の潮通しの良い砂礫干潟の埋没石下面にも健全な個体群が確認できるようになったので、前回(VU)よりランクダウンすべき種と評価された。

【形態】

殻長約 5 mm の小型で扁平な笠型。殻頂は左側に傾く。軟体は紅色で、足の筋肉の中に微小な蓋が埋もれている。

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように愛知県での生息場所は著しく減少したと考えられ、木村・木村(1999)を含めて3カ所であったが、近年の調査で前島(早瀬・他 2015b)、沖島(早瀬・他 2015a)、梶島(早瀬・他 2016)、佐久島(早瀬・木村, 2020)、河和(早瀬・木村, 2017)で比較的多くの個体の生息が確認された。これらの海域より外洋寄りの日間賀島(早瀬・他, 2019)では生息が確認できなかった。

【世界及び国内の分布】

現在まで未記載種なので、日本でのみ生息情報がある。国内では三浦半島、浜名湖、三河湾、伊勢湾、瀬戸内海、玄界灘、有明海に分布する(木村, 2012)。

【生息地の環境／生態的特性】

上述したようなヨシ原湿地周辺などの 10 cm 以上深く埋もれた石の下面に付着している。生息部位は硫化水素が発生して黒色を呈する還元的な環境である。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したようなヨシ原湿地や内湾潮間帯の転石地環境が護岸工事などで破壊され、生息地が減少している。

【保全上の留意点】

上述したようなヨシ原湿地や内湾潮間帯の転石地環境を保全することはいうまでもなく、周辺水域の水質も保全する必要がある。

【特記事項】

本種の生きた個体は三河湾汐川干潟で初めて発見され、しばらく分布の東限とされていた。

【引用文献】

- 木村昭一・木村妙子, 1999. 三河湾及び伊勢湾河口域におけるアシ原湿地の腹足類相. 日本ベントス学会誌, 54: 44-56.
木村昭一, 2012. ヒナユキスズメ, p. 27. in: 日本ベントス学会(編) 干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野.
早瀬善正・木村昭一・大貫貴清, 2015a. 沖島(三河湾)の転石地潮間帯の貝類相. かきつばた, (40): 23-30.
早瀬善正・大貫貴清・吉川 尚・松永育之・社家間太郎, 2015b. 前島(三河湾)の転石地潮間帯の貝類相 - 特徴的な 16 種の記録. ちりぼたん, 45 (3): 105-122.
早瀬善正・木村昭一・河辺訓受・川瀬基弘・林 誠司・西 浩孝・守谷茂樹・石井健一郎・大貫貴清・岩田明久・仲田彰男, 2016. 梶島(三河湾)の潮間帯の貝類相. かきつばた, (41): 27-39.
早瀬善正・木村昭一, 2020. 佐久島(三河湾)の潮間帯貝類相. ちりぼたん, 50 (1): 33-79.
早瀬善正・木村昭一・西 浩孝・守谷茂樹・岩田明久, 2019. 日間賀島(三河湾)の潮間帯貝類相. かきつばた, (44): 1-15.
早瀬善正・木村昭一, 2017. 河和(三河湾)の内湾潮間帯の貝類相. ちりぼたん, 47 (1-4): 28-42.

(木村昭一)



1: 南知多町河和, 2014年5月16日, 2: 西尾市佐久島, 2017年6月25日, 早瀬善正採集, 3: 豊橋市汐川干潟, 1995年8月3日, 木村昭一採集